

研究滞在記

ナノスピントロニクス分科 田辺賢士

私は若手研究者国際短期派遣事業で1ヶ月間、イタリアのペルージャに滞在しました。今まで海外に行ったのは一度しかなく、一人で海外に行くこと、生活することに大きな不安を抱えながらの生活になりました。私が滞在したペルージャはサッカー選手の中田英寿がいたところでも有名で（現在、中田の所属していたチームは経営上の問題からセリエDに所属）、イタリアの半島の真ん中あたりにあり、ローマやフィレンツェから2~3時間で着くことができます。丘に囲まれた町で丘の上に登ればきれいな景色が見える一方、坂が多く毎日山登りをして大学に通っていました。滞在先は修道院内部にある寮だったため、修道服を着た人がいて、十字架がいろいろな所にかけている不思議な空間での生活となりました。たまたま最初の週の木曜日に寮会議があり、参加させて頂きました（当然、公用語はイタリア語なので理解はできませんでしたが。）。おかげで、日本から学生が来ていることを寮生に知って頂けることができ、いろいろな人に話しかけて頂けるようになりました。例えば寮内にあるキッチンで料理をしようとした時、リゾットの作り方を教えてくれた人もいましたし、また自作の増幅器を作製していた人に回路について話しはじめ、部屋に呼んで頂けることもありました。日本にいた時は外国の方と話すことが億劫に感じていたとこと考えると、少し成長できたように感じます。

大学ではブリルアン散乱測定法を学び、スピン波の測定実験を行いました。1ヶ月では研究成果を出すまでは至りませんでした。日本とは異なる環境での研究は多くのことを学ぶことができました。例えば日本人は勤勉と呼ばれているとおおり、イタリアでは夜遅くまで研究することはありません。しかし一方で、短時間でもものすごく集中して研究する文化があり、大変疲れました。メリハリを付けた研究姿勢は日本に帰っても続けて行きたいと考えています。

最後にイタリアの料理はすごくおいしかったです。イタリアに旅立つ前は食事に心配しており、日本からカップ麺を持って行きましたが、その必要はなかったです。パスタやリゾット、ピザのように日本人でも食べ慣れた料理が多く、また種類も多数ありました。特にイタリアでは昼食後にエスプレッソを飲む文化があります。エスプレッソは一口で飲めるくらいの少量で、大量の砂糖を入れて飲みます。味は苦くて甘いですが、鼻から抜ける香りがすごく気持ちいいものです。日本に帰ってからはエスプレッソを飲む機会はほとんどありませんが、たまに飲むとイタリアが懐かしく感じます。